

大谷學報

第 98 卷 第 1 号

2018年10月31日発行

アスクレピオスに鶏を…………… 朴一功 (1)

——ソクラテスの最後の言葉について——

『華嚴經』天上篇の思想史の意味について

織田顕祐 (23)

『安樂集』第十二大門における『十往生經』の引用の
意図について…………… マイケル・コンウェイ (43)

二〇一八年度 春季公開講演会講演録

往生要集の救い…………… ロバート F. ローズ (67)

——地獄・極楽・念仏——

二〇一七年度

修士論文・卒業論文・卒業研究題目一覧…………… (93)

彙報…………… (121)

仏教混交サンスクリット語における

2 語幹名詞の語末 -a について…………… 稲葉維摩 (45)

——Larger Sukhavatīyūha 2——

Saddharmapundarikasūtra に基づいて——

音楽科における「主体的・対話的で深い学び」

市川郁子 (23)

ペンバリーからチャッツワースへ…………… 村瀬順子 (1)

——英国流「人とすみか」——

大 谷 大 学

大 谷 学 会

THE
OTANI GAKUHO
(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles:

- From Pemberley to Chatsworth: English style of ‘people and their houses’
.....MURASE Yoriko (1)
- Active Learning in Primary School Music Education.... ICHIKAWA Ikuko (23)
- On the Termination -a of a-stem nouns in Buddhist Hybrid Sanskrit
—The *Larger Sukhāvāṭīvyūha* and *Saddharmapuṇḍarīkasūtra*—
.....INABA Yuima (45)
-
- Reports (121)
- Titles of Theses Presented for MA and BA Degrees, 2017 Academic Year (93)
- Résumés of Papers Presented at the Otani Public Lecture, Spring 2018
- Salvation in the *Ōjōyōshū*: Hells, Land of Bliss and Nenbutsu
.....Robert F. RHODES (67)
-

Articles:

- Daochuo’s Intention in Quoting the *Shiwangshengjing* in Chapter 12 of the *Anleji*
.....Michael J. CONWAY (43)
- On the Historical Significance of the Heavenly Section in *Buddāvataṃsaka-sūtra*
.....ODA Akihiro (23)
- A Cock to Asclepius: Socrates’ Last Words.....PARK Ilgong (1)

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

五臺山佛光寺の唐代の経幢……………松浦典弘

二〇一七年度 春季公開講演会講演録
ターミナルケア、グリーンフケアの現場から考える
人生の喜びと悲しみの意味……………高木慶子
《私》という偶然をめぐって……………脇坂真弥

二〇一六年度

修士論文・卒業論文・卒業研究題目一覧
彙報

ある死体損壊等被告事件の情状鑑定を通して
……………協中 洋

大谷大学図書館所蔵『大乘五蘊論問書』(二)

……………箕浦暁雄
明治二四年の真宗大谷派改革運動……………川口 淳
——龍華先音を起点として——
ハイデッガー・ナチズム問題再考……………田鍋良臣
——メタポリティークの視点から——

彙報

学位論文審査要旨

蔵訳『阿闍世王経』第IV章訳注研究……………宮崎展昌
在朝鮮日本人画家加藤松林人の活動
……………喜多恵美子

——自筆履歴書をめぐって——

M L A 連携における3Dデジタルアーカイブ活
用に向けた一考察……………武田和哉
——M(博物館等施設)・L(図書館施設)間の課題
解決を中心として——

【英文】日本における仏教と国家の関係

……………ロバート F. ローズ
——最澄と空海の思想に関連して——

大谷学会規程

第1条 (設置) 大谷大学及び大谷大学短期大学部(以下「本学」という。)に大谷学会(以下「本会」という。)を置く。

第2条 (目的) 本会は、本学の学術研究の推進及びその成果の公開を目的とする。

第3条 (事業) 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 ①「大谷学報」の発行
 ②「大谷大学研究年報」の発行
 ③研究会及び公開講演会の開催
 ④その他必要と認める事業

第4条 (構成) 本会は、次の者をもって構成する。
 (1) 本学の学生
 (2) 本会の趣旨に賛同し、役員会において承認された者

第5条 (役員) 本会に、次の役員を置く。
 (1) 会長
 (2) 副会長
 (3) 委員
 (4) 監事

第6条 (会長) 会長は、大谷大学長が当たり、本会を代表する。

第7条 (副会長) 副会長は、学監・副学長が当たり、会務を統理する。
第8条 (委員) 委員は、第3条第1号及び第2号の編集兼発行者となる。

第7条 (委員) 委員は10名とし、教授会において互選する。
 ① 委員は、企画・編集・出版等の会務に当たる。
 ② 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。
 ③ 庶務

第8条 (庶務) 会務を円滑に遂行するため、庶務を置くことができる。
 ① 庶務は、本会委員のうちから、会長が委嘱する。

第9条 (監事) 監事は2名とし、教授会において互選する。任期は2年とする。
 ① 監事は、本会の会計を監査する。

第10条 (研究発表等) 会員は、本会の出版物にその研究を發表し、「大谷学報」及び「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第11条 (会費) 会員の会費は、年額四〇〇〇円とする。ただし、学生会員は二〇〇〇円とする。

第12条 (経費) 本会の経費は、会費をもってこれに当てる。
 ① 本会の経費については、助成金を受けることができる。

第13条 (所管) 本会に関する事務の所管は、教育研究支援部教育研究支援課とする。

第14条 (改廢) この規程の改廢は、教授会の議を経て、会長が決定する。
 ① この規程は、一九八一年四月一日から施行する。
 ② 一九六二年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廢止する。

付則 この規程は、一九九三年四月一日から施行する。
 付則 この規程は、一九九五年六月一日から施行する。
 付則 この規程は、二〇〇二年六月一日から施行する。

付則 この規程は、二〇〇六年十一月八日に一部改正し、同日から施行する。ただし、第3条第1号については、第86巻第1号から適用する。

付則 この規程は、二〇一二年二月一日に一部改正し、二〇一二年四月一日から施行する。
 付則 この規程は、二〇一四年四月一日に一部改正し、同日から施行する。

（大谷学会委員）

- | | |
|--------|-------|
| 安藤 香田 | 井上 摩紀 |
| 岡村 明日香 | 武田 和哉 |
| 田中 潤一 | 新田 智通 |
| 野村 明宏 | 藤原 正寿 |
| 村山 保史 | 渡部 洋 |

大谷学報第九十八巻第一号
 平成三十二年(二〇一八年)十月三十一日発行

大谷学会
 編集兼 宮崎 健司
 発行者
 発行所 大谷学会
 〒三三八四 京都市北区小山上総町
 大谷大学内
 ☎ (〇七五) 四一八一五八直
 振替 〇一〇四〇七一八三三九番
 印刷者 田中 雅博